

(3) 地下水及び河川水質について

想定課題

国会等の移転に伴う都市化によって、地下水位及び河川の水質への影響はどうか。

対応方向

国会等の移転に伴い生じる新たな都市用水需要に対しては、表流水による水源確保を原則とし、地下水の利用は極力抑制することが望ましいと考えています。

ただし、近年見られるクリプトスポリジウムや化学薬品等による水源汚染の問題、少雨による渇水への対応策という面から、複数の種類の水源を確保することは、供給の安定性の確保という点からも重要な課題ですので、予備水源として地下水水源を確保することも必要であると考えています。

このように、やむを得ず地下水を利用する場合には、影響調査など事前の十分な準備や、過剰な利用を抑制する措置など地下水や湧水の保全に向けた万全の施策を実施する必要があると考えています。

なお、地下水や湧水の保全に当たっては、那須野ヶ原は厚い砂礫層が堆積する扇状地で、蛇尾川・熊川に見られるように、表流水は山地を出て地下に浸透して伏流水となり、扇端部で湧水となるため、この地域では大雨の際等に湧出が増えることから、十分な排水対策も必要となります。

さらに、地下水かん養のため、上流部の森林整備による水源かん養機能の向上や、都市づくりに当たっては、透水性舗装など雨水の適正な地下浸透を図る方法の導入なども検討し、自然の水循環を考慮した水利用を推進する必要があります。

また、河川の水質への影響については、下水道等の整備を中心として十分に対応することとし、新技術の導入による水の循環利用の促進なども検討し、自然環境と調和した21世紀を代表する都市に相応しい、良好な水環境の保全にも努めていく必要があります。

クリプトスポリジウム (cryptosporidium)

マラリアなどと同じ原虫の仲間。病原性大腸菌O-157騒ぎの陰に隠れてあまり話題にならなかったが、1996年6月に埼玉県越生町でこの原虫によって水道水が汚染され、九千人近くの患者が発生し、下痢、腹痛に苦しむ患者は病院の待合室に入りきれないような状態が続いた。この原虫は、オーシストという頑丈な殻の中に入っているため、水道が汚染されても塩素殺菌が期待できない。いったん水が汚染されてしまうと安全な水の確保は困難になる。

流域における水循環

